FIWC関東
Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I. (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2001.3

参加者：目黒美穂子、服部雅行、青山哲也、中村隆之、浅利絵里香、小林武史、村山知子、吉岡華子、藤澤真人、西尾雄志、潮田広行、植波剣吾、中西慎、鳥居厚志、中村博志、松本譲、田中宇宙、河田幸子、茂木亮、笠眉彦、阿木幸男　以上21名

2001年3月24日（土）目黒鍼療院にて。

担当：西尾雄志

FIWC関東委員会の呼びかけで、SCI-Japanと合同で行っています。

活動報告

バングラデシュキャンプ（SCI）

2月14日から3月3日まで、バングラデシュの南端のランガバリー島でワークキャンプを行いました。バングラデシュというと暑い国というイメージがありますが、2月は冬のため、日中は暑いのですが、朝晩は寒く、気温差の激しさから体調を崩しやすい状況にあったと思います。

ワークの内容は、井戸掘りとトイレ作りでした。しかし、井戸掘りに関してはキャンプ中に材料が届かず、ワークとしては全く手をつけることができませんでした。結局トイレ作りのみを行ったのですが、トイレ作りの作業としては、まず既に出来上がっている材料をワーク地まで運び、そこに1メートル程の穴を掘り、材料を設置するという単純なものですが、日中は暑く、ワーク地まで遠いため、単純ながらもたいへんなものだったと思います。

ワーク以外にも「フェスティバル」という日本人が中心となって学校の校庭を借りて大勢の村人の前で歌や空手や劇などの出し物をするイベントや、小学校の低学年の子供たちと一緒に借り物競争などをする「半日教室」をやりました。

参加者は日本人28名（男性10名、女性18名）、バングラデシュ人4名（男性のみ。スタッフは除く）、ネパール人2名（男性のみ）。日本人は女性が多いのに対し、バングラデシュ人は男性のみでした。これは、バングラデシュがイスラム文化であること、女性はあまり外へ出るべきではないというような考えがあるためだと思われます。このバングラデシュキャンプは3回目になるのですが、今回は初めてネパールからの参加者もありました。また、当初から心配されていた人数の多さに関しても、特に大きな問題は見受けられませんでした。

今回リーダーとして参加しましたが、もちろんキャンプが完璧だったわけではなく、改善すべき点も数多くあるだろうし、僕自身失敗をしたり、いたらない点もありました。しかし、総合的に見て、今回のキャンプはうまくいったと思っています。この未経験でリーダーらしくないリーダーに協力してくださった方々、応援してくださった方々、どうもありがとうございました。

鳥居厚志

バングラデシュキャンプ参加者の感想

○**吉岡華子**…私は、海外に行くのも初めてで、行く前は不安でいっぱいで、現地でやることも、行く前はワーク、肉体労働が主なことだろうと思っていました。しかし、実際に現地でやったことで印象にのこっていることといったらワークよりも、フェスティバルや半日教室といった、キャンパー同士で交流をもてたことが大きくて、

FIWC関東定例委員会報告

一言では言えないけれど行って良かったと思いました。ただ、英語が話せなくてバングラ人やネパールのキャンパーと交流をもてなかったことがくやしいです。

○**村山知子**…日本人だけでなく、バングラ人、ネパール人などと様々な話をできた事が一番素晴らしかった。今まで会ったことのなかった民族を知る事ができてよかった。

○**浅利絵里香**…8月にFIWCでフィリピンに行き、2月にSCIでバングラデシュに行ったが、組織が違うだけで、こんなにもやり方が違うのかと実感した。あと、私はみんなより一週間はやくバングラデシュに行ったので、その分多くのベンガル語を多く覚えられたので良かった。

○**中村隆之**…楽しい国でした。子供も大人もノリがいいです。「ラブソングを教えてくれ。」というので、一休さんを教えるとよく歌ってくれました。

○**小林武史**…活動地の島は貧しさを感じさせないくらい、きれいで、のんびりしていた。また、人々の顔は非常に明るかった。逆にダッカはたくさんの問題をかかえていたと思う。(大気汚染、物乞い、交通問題、衛生問題など)まるで日本の戦後すぐの状況のようで、タイムスリップした気分だった。

○**西尾雄志**…キャンプ終了日に、アンケート形式でエバリュエーションペーパーを参加者一人一人に書いてもらいました。ワークやその他の集団生活に関するみんなの本音がかかれています。

※日本語に編集したものがあるので、興味のある人は連絡くれれば、差し上げます。

フィリピンキャンプ(FIWC関東)

フィリピンのレイテ島マハヤハイ村にて貯水タンクを作るワークをした。日本人参加者34人(男性14名、女性20人)、プラス現地の住人。村の小学校に寝泊りした。参加者が多すぎて、コミュニケーションがとりずらかった。20名くらいが適度かも。バングラキャンプでつくったエバリュエーションペーパーのようなものも、次回から取り入れてみたい。

○出席者からの質問

Q. どんなもの食べてたの?

A. 主食は米。日本人が交代で食事当番を担当し、フィリピンの材料を使って料理をつくってた。

中西 慎

フィリピンキャンプ参加者の感想

○**植波剣吾**…キャンプを通じて何か考えられればと思って参加した。とにかく楽しかった。

○**潮田広行**…村人に必要なワークは何か、と聞くところからワーク探しを始めている。参加者の中からは、このワークが果たして本当に必要なのか、という声も出てくるが、基本は村が望んでいることをやっている。しかし、日本人がみな納得できるようなワークを探すのは難しい。(「そういったことに関してみんなで話し合う場はなかったのか」という質問に対し)最近のフィリピンキャンプは、全体としての話し合いの場はあまり持たない。個人的に興味のある人が集まって勝手に話し合うという形になってる。

○**中西慎**…村の人から喜ばれて良かった。村人と交流できてよかった。

ネパールキャンプ(SCI)

次回キャンプのリーダーも決まり、現在SCIネパールとメールにてキャンプの準備を進めている。キャンプ地、およびワーク内容は去年と同じ、ティミ村での障害者用の学校の建設。キャンプ日時は未定だが、来年の春休みくらいが候補に挙がってるみたい。

西尾 雄志

耶馬渓キャンプ（FIWC）

2001年4月28日〜5月6日

FIWCのOBの鈴木建久さんが大分の耶馬渓で農場をしています。そこで手伝いをします。

・田植えの準備や夏野菜の定植、玉子の出荷など
・二階堂（焼酎）を飲む
・FIWC関東の連中と関西の連中の交流
・温泉につかり、きれいな水とおいしい野菜と場合によってはしし鍋とかが食える…など
・ゴールデンウィークに是非来てくれ！

鈴木 建久さん

報告：田中☆宇宙

耶馬渓への行き方

飛行機	東京（羽田）✈ 福岡 90min,（定）\31,000、（割）\14500〜		
	福岡空港 🚌 日田バスターミナル 🚌（中津行・最終16:35）		
	80〜120min、\1,750	45min、\950	
新幹線	東京 🚃 小倉 290min,のぞみ（定）\23130		
	小倉 🚶🚌（JR日豊本線）中津 🚌（日田行・最終16:00）		
	90min、\2,020	60min、\1,050	

どちらも 特急バス利用の場合「裏耶馬渓入口」
各停のバス利用の場合「下郷」バス停で下車。
バス降車後、電話してください。

耶馬渓キャンプに参加希望の方はご一報ください。

連絡先：茂木 亮

山梨キャンプ（SCI）

2001年8月2日〜8月16日

山梨の小杉農場でワークキャンプを行います。小杉さんは不登校の子供たちが気軽に集まれる場所を作ろうと活動しています。そのひとつとしてログハウス「ほっとけ小屋」を建設中です。海外からの参加者も募る国際的なキャンプです。昨年はネパール人2名、ドイツ人1名、ベルギー人1名、在英日本人1名の参加がありました。

SCI-Japan
豊田 兼宇・素子

浜松キャンプ（SCI）

2001年8月11日〜8月25日

浜松のブラジル人学校でワークキャンプを行います。5月に高橋さん以下2名ほどが下見に行く予定。ワーク内容は未定。キャンプでお世話になっているバングラデシュ、ネパールから参加者を呼ぼうという動きが出ています。

ワークキャンプ勉強会開催

ワークキャンプをたんに面白かったイベントで終わらせてしまうのではなく、キャンプ後に自分の参加したキャンプの意味を考える場を、「勉強会」という形でもちたいと思います。キャンプという具体的な問題をテーマにして、「自分にとってキャンプはどんな意味を持つのか」、「村人にとってキャンプはどんな意味があったのか」、「この時代にキャンプというものはどういった意味を持つのか」といったことを考えてみたいと思います。身近な話題もおりまぜながら、少し学問的にもやっていきたいと思っています。第1回目は「ワークキャンプの持つ意味」をテーマにします。バングラデシュ、ネパール、フィリピンなどのキャンプに参加した人をはじめとして、様々な人にきてもらいたいです。日時は4月14日を予定してますが、変更の可能性もありです。問い合わせは西尾まで。

SCI総会

2001年4月8日（日）13:00〜

SCIの総会が代々木で行われます。役員の選出や今後の活動方針などを話し合います。どなたでも参加できます。場所：国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟507号会議室
（小田急線、参宮橋駅下車、徒歩5分）

CCIVSのインターン募集（SCI）

ヨーロッパのNGOで運営の仕方や組織のあり方を学んで、今後のSCIの活動に生かしてくれる人を一名募集しています。時期は6月末から1ヶ月程です。なお渡航費の25パーセント、現地生活費が支給されます。

モグネット
www.mognet.org
ワークキャンプの写真が満載！
ハンセン病関連の本が買える！
定例会報告のPDFをダウンロード！

FIWC関東定例委員会報告

定例会に関して

過去にキャンプに参加した人や、違うキャンプに参加した人たちに対して、情報を提供することが大切だ、ということで定例会を去年から復活させた。それで一年以上定例会をやってきたわけだけど、定例会を呼びかけるのは、現役キャンパーというより、過去にキャンプに参加した人たちだった。そのため、現役キャンパーとしては、自分たちとは別のところにある場に呼ばれている、という意識もあり、定例会になかなか来にくかったのではないか。そもそもこういった場での主役は、現役キャンパーなのだから、彼らがやりやすいように定例会の場を変えていってもいいし、主導権を持ってやっていった方がいいと思う。過去にキャンプに参加した人間としても、定例会の主催者でありつづけようと思ってるわけではないから、彼らに任せたいと思ってる。

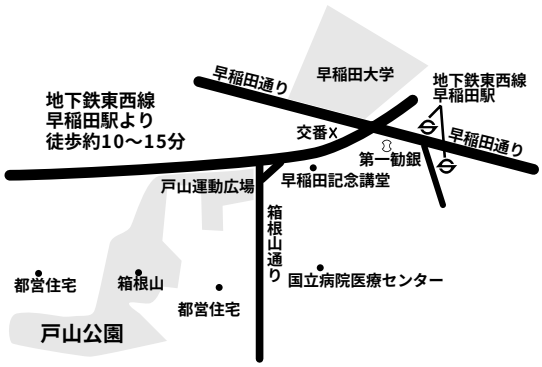
　ということで、定例会がどんな場になればいいか、どんな場であれば現役キャンパーにとっていいものになるか、現役キャンパーの人たちが考えてくれるとうれしい。[コメント：青山哲也]

大花見大会開催

3月30日(金)

2001年3月30日(金)12:00〜

場所は早稲田大学文学部うらの戸山公園です（去年とおなじトコ）。食べ物、飲み物持込大歓迎です。みんなどんどん参加しよう!！ ［連絡先：西尾雄志］



全生園・お花見

4月7日(土)

2001年4月7日(土)11:00〜

東村山市にある多磨全生園で森元美代治さんや、FIWCのOB・OGが集まって花見をします。午前11時からです。全生園の桜はとてもきれいです。

BUS
西武池袋線清瀬駅より久米川駅行、または所沢駅行
西武新宿線久米川駅から清瀬駅行
ハンセン病資料館前下車

阿木 幸男

FIWC関東委員会会計より

年会費は3000円です。

以下の方より年会費をいただきました。（敬称略）

阿木幸男、松下寿一、松本譲、

フィリピンキャンプ参加者（34名）

郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

次回の定例会　隔月で開催中

2001年5月19日（土）19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会
委員長 西尾雄志

編集：茂木 亮　　mog@mognet.org
PDF版では個人の連絡先を掲載しておりません。
ご希望の方はメールでお問い合わせください。